

アジア産キイチゴ属の分類学的ノート (9)
4分類群に関する学名の整理*

鳴橋直弘¹

Taxonomic note of Asiatic *Rubus* (9) Taxonomic treatments for the four taxa*

Naohiro NARUHASHI

Abstract: The scientific names of the four *Rubus* taxa from Japan are discussed. They are *R. mesogaesus* f. *oxycomus*, *R. minusculus* var. *hongnoensis*, *R. × nakaii* and *R. piptopetalus*.

抄録: 日本産のバラ科キイチゴ属、トゲナシヒメバライチゴ、チチジマイチゴ、シモキタイチゴ、及びタイワンヤブイチゴの学名についての報告である。

Key words: *Rubus*; *R. mesogaesus* f. *oxycomus*; *R. minusculus* var. *hongnoensis*; *R. × nakaii*; *R. piptopetalus*

以下のバラ科キイチゴ属の4分類群の学名に変更が生じたので、ここに報告する。

1. トゲナシヒメバライチゴ

鳥根県の丸山 巖氏から1967年にトゲナシヒメバライチゴとして筆者に3点の標本が送られてきた(図1A)。植物は鳥根県出雲市立久恵産で、数年自宅で栽培されていたものである。この植物とヒメバライチゴとの違いは、ヒメバライチゴには植物全体にトゲがあるのに対して、植物体は無刺であるという。その後、彼は出雲市三保や山口県山口市長門峡でも見たという。

この植物は、ヒメバライチゴの半日陰に生育する生態型と考えられ、トゲは全くないものである。ところで、ヒメバライチゴの多くの標本を観察すると、多数の頑丈なトゲがあるもの、やや弱いトゲがあるもの、ほんの少しの小さいトゲのあるもの、全くトゲのないものまで存在する。

中井猛之進は *Rubus rosifolius* と比べて花柄にトゲがないとして *R. hongnoensis* を区別した (Nakai, 1914)。この鳥根県の無刺のヒメバライチゴは、韓国の済州島から報告された中井の *R. hongnoensis* にあたる。しかし、中井の記載にも非常に疎らにトゲがあることも書かれている。その後に出版された『朝鮮森林植物篇』(中井, 1918; 1976)でも、“茎は高さ1~1.5 ft (原文では1~1.5 cmと記載)、無毛かつ刺なし”と記載されているが、その本の第25図では、葉柄に微細なトゲが描かれている。実際東京大学総合研究博物館の *R. hongnoensis* の Lectotype やハーバード大学の Isosytype にも微細なトゲが存在する(図1B)。よって厳密な無刺ではないが、ごく希に長さ1 mm ぐらいの微細なトゲのあるものまで、含まれることになる。

この植物は朝鮮半島の最南端の沿海地と済州島に分布している(呉・朴, 2001)。日本では、福岡県、山口県、鳥根県に分布していることが今回明らかになった。

中井の *R. hongnoensis* と Léveillé and Vaniot (1905) の *R. minusculus* とは、葉の質の違いとトゲの状態の違いだけで、その他の違いはないようである。よって、両者を別種と考えるよりも変種関係が適切であると考えられる。サイシュウバライチゴが本種の和名として発表されている(中井, 1918)が、バライチゴの群ではなく、ヒメバ

*大阪市立自然史博物館業績第481号 (2020年1月21日受理)

* Continued from The Journal of Phytogeography and Taxonomy 63(2): 81-83. 2016.

¹大阪市立自然史博物館 〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-23

Osaka Museum of Natural History, Nagai Park 1-23, Higashisumiyoshi-ku, Osaka 546-0034, Japan

Corresponding author: N. Naruhashi, yjrxq660@ybb.ne.jp

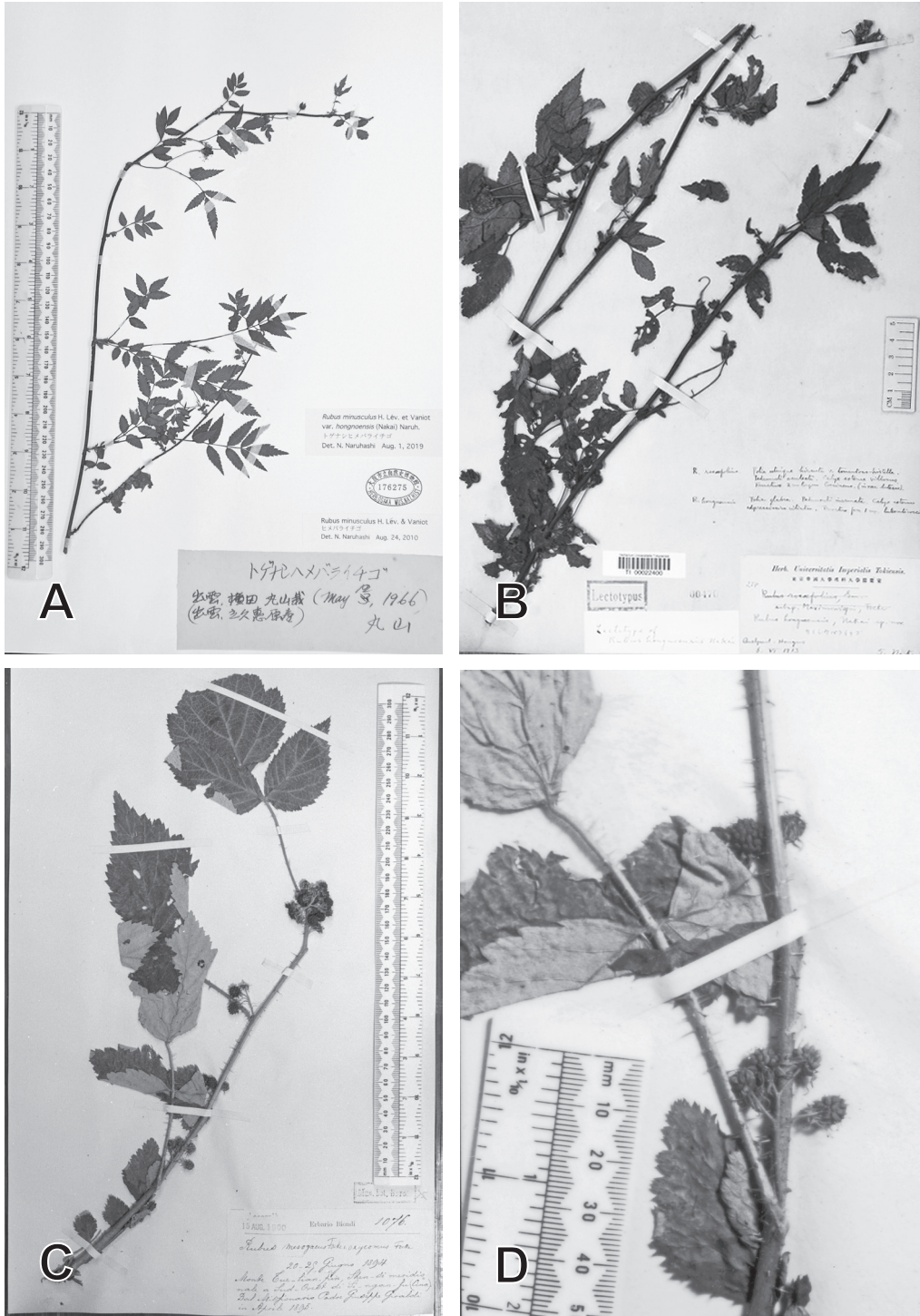


図1. トゲナシヒメバライチゴとシモキタイイチゴの標本. A: 鳥根県出雲市産のトゲナシヒメバライチゴ (大阪市立自然史博物館所蔵). B: トゲナシヒメバライチゴのレクトタイプ (東京大学総合博物館所蔵, 池田 博博士撮影). C: シモキタイイチゴのホロタイプ (バルリン・ダーレム博物館所蔵). D: シモキタイイチゴのホロタイプの一部拡大.

Fig. 1. Specimens of *Rubus minusculus* var. *hongnoensis* and *R. mesogaeus* f. *oxycomus*. A: Specimen of *R. minusculus* var. *hongnoensis* from Shimane Pref. (OSA). B: Lectotype of *R. minusculus* var. *hongnoensis* (TI, photo by Dr. Hiroshi Ikeda). C: Holotype of *R. mesogaeus* f. *oxycomus* (B). D: Enlargement of holotype of *R. mesogaeus* f. *oxycomus*.

ライチゴの種内分類群であるのと、トゲナシヒメバライチゴの方がその形態をよく表現しているの、和名をトゲナシヒメバライチゴとしたい。

2. チチジマイチゴ

チチジマイチゴは、津山 尚が小笠原諸島の父島大滝の標本で記載した植物である (Tuyama, 1937)。筆者はこの植物を父島より持ち帰り富山大学のガラス室にて栽培していた。初年茎はカジイチゴに類似しており、花茎上の花はハチジョウイチゴに類似するも重弁花となる。

初島住彦 (1976) は『日本の樹木』の中で、チチジマイチゴをハチジョウイチゴとカジイチゴとの雑種だと考えている。豊田 (1981) はチチジマイチゴがカジイチゴに似ていること、及び花卉が通常5弁だが6弁や重弁があることを記している。逆に、小野ほか (1991) はハチジョウイチゴに似ているが、ピロード状の毛の違いと、花卉が6~8枚になることを報告している。筆者も栽培下で同様の点を観察している。つまり、この植物は、ハチジョウイチゴとカジイチゴの特徴を合わせもっていることを意味している。実際、遠藤ほか (Endo et al., 2000) は、伊豆諸島の神津島からハチジョウイチゴとカジイチゴの雑種を報告している。また、荒金正憲 (2006) の『豊の国 大分の植物誌 増補』では、この雑種について、初島 (2004) のヒメシマカジイチゴとしているが、これも同じ植物である。筆者は、以前チチジマイチゴをハチジョウイチゴと同種と考えたが (Naruhashi, 2001)、本論文において、この分類群をハチジョウイチゴとカジイチゴの雑種と訂正する。

3. シモキタイチゴ

邑田・米倉 (2012) の『日本維管束植物目録』120頁にシモキタイチゴ *R. mesogaeus* Focke var. *adenothrix* Momiy. ex Hatus. が出ている。しかしこれは裸名である。シモキタイチゴは初山泰一 (1957) によって発表されたが、日本語のみで、正式な記載はなかった。その後、初島住彦 (1969) はシモキタイチゴを取り上げているが、中国の腺毛型と比較する必要があるとして、英文記載のみで、ラテン語での正式記載はされなかった。

Focke (1901) は Diels の *Die Flora von Central-China* のなかで、クロイチゴを記載した時に、腺毛のある形を記載している。それが、var. *oxycomus* Focke である。このタイプ標本はベルリン・ダーレム博物館にある Giraldis no. 1076 である (図1C & D)。これはクロイチゴの茎、葉柄、花柄に腺毛のある型であり、それ以外の形態的特徴はクロイチゴとは変わらない。この Giraldis の標本は日本産のシモキタイチゴと一致する。

この植物と変種関係のクロイチゴとは腺毛の有る無し以外の形態的な差は見つけられない。また、産地も中国や日本のいろいろなどころに出現し、地理的な意味もないように思われる。よって、変種関係というよりは品種関係と考え、シモキタイチゴをクロイチゴの1品種として、学名を *R. mesogaeus* f. *oxycomus* とした。

4. タイワンヤブイチゴ

最近出版された『ネイチャーガイド5 琉球の樹木』では、「アリサンバライチゴ」の学名を *R. cardotii* にしているが (大川・林, 2016)、*R. cardotii* Koidz. は植物全体に有毛で、花が単性ではないなど全く違う植物である。この植物は以前よりアリサンオオバライチゴ (*R. rosifolius* Sm. var. *formosanus* Cardot) として記載されていた (Walker, 1976; 初島・天野, 1977; 初島・中島, 1979)。さかのぼって、まず Cardot (1917) は台湾のこの植物を *R. rosifolius* Sm. var. *formosanus* Cardot とした。インド洋に位置するモーリシャスから記載された *R. rosifolius* (Smith, 1791) とは別種とするほど形態的に違っている。そこで、小泉源一 (Koidzumi, 1930) は後に別種関係と考え、*R. rosifolius* Sm. var. *formosanus* Cardot を *R. cardotii* として記載している。しかし、上記したように *R. cardotii* ではない。邑田・米倉 (2012) も与那国島のアリサンバライチゴ (アリサンオオバライチゴ) を *R. cardotii* Koidz. (= *R. rosifolius* Sm. var. *formosanus* Cardot) に当てることに疑問を持っている。

以前より与那国島で生育が知られている植物は、オオバライチゴに似るも、植物体の先端は湾曲し、葉柄の長さは3 cm 以上で、花の直径は2.8 cm 以下という点で異なっている。この植物は台湾でよく見られるタイワンヤブイチゴ (*R. piptopetalus*) である。

謝辞

東京大学総合博物館の池田 博博士からサイシユウバライチゴのタイプ標本の写真を戴いた。また、大阪市立自然史博物館外来研究員の瀬戸 剛氏, および2人の査読者から有益なコメントを戴いた。ここでお礼申し上げる。また、標本の閲覧許可をいただいたベルリン・ダーレム博物館 (B), ハーバード大学 (GH), 東京大学総合研究博物館 (TI), 大阪市立自然史博物館 (OSA) のキュレーターに感謝する。

Taxonomic treatment

1. *R. minusculus* H. Lév. et Vaniot **var. hongnoensis** (Nakai) Naruh., **stat. & comb. nov.**

Basion.: *R. hongnoensis* Nakai in Report. Spec. Nov. Regni Veg. 13: 277 (1914)

Lectotype [designated by Momiyama & Ohba 1988] : Korea (Jeju Island) : in dumosis circa cascade Hongno. T. Nakai no. 214 (TI!)

Japanese name : Togenashi-himebara-ichigo

Distr.: Japan. Fukuoka Pref. Yamaguchi Pref. and Shimane Pref.; Southern Korea

2. *Rubus* × *nakaii* Tuyama in Bot. Mag. Tokyo 51: 131 (1937), (pro sp.)

Presumption: *R. ribisoideus* Matsum. × *R. trifidus* Thunb.

Lectotype: [designated here, however as holotype designated by Momiyama & Ohba 1988] : Tokyo Pref., Bonin Island, Chichi-jima, Ootaki, Takashi Tuyama no. 3, 8 April 1936 (TI!)

Syn.:

R. ribisoideus Matsum. × *R. trifidus* Thunb. Endo et al. in J. Jpn. Bot. 75 (5) : 308, nom. invalid., syn. nov.

R. ribisoideus non Matsum.; Naruhashi in Iwatsuki, Boufford and Ohba, Fl. Jpn. II b, 154. (2001), sub syn.

R. × himeshimensis Hatus. Bull. Kagoshima Univ. Mus. (1) : 109; Aragane, Toyonokuni Fl. Oita Pref. 2: 233 (2006) , nom. nud., syn. nov.

Japanese name : Chichijima-ichigo

Distr.: Japan. Tokyo Pref. and Oita Pref.

3. *R. mesogaeus* Focke **f. oxycomus** Focke., **stat. nov.**

This form differs from *R. mesogaeus* Focke *f. mesogaeus* in granular hairs on stems and petioles. Other morphological features are the same as *f. mesogaeus*.

Basion.: *R. mesogaeus* Focke var. *oxycomus* Focke in Diels, Bot. Jahrb. Syst. 29: 399 (1901)

Holotype: China. Tu e lian pin, Giraldi no. 1076 (B!)

Syn:

R. mesogaeus Focke var. *adenothrix* Momiy. in Research Inst. Nat. Resources 43-44: 8 (1957), nom. nud., desc. Jap.

R. mesogaeus Focke var. *adenothrix* Momiy. ex Hatus. in J. Geobot (= J. Phytogeogr. Taxon.) 17 (3) : 84, nom. invalid.

Japanese name : Shimokita-ichigo

Distr.: China & Japan. Hokkaido, Honshu and Shikoku

4. *R. piptopetalus* Hayata ex Koidz. in J. Coll. Sci. Univ. Tokyo 34: 141 (1913)

Lectotype [designated by Momiyama & Ohba 1988] : Taiwan (Daihoku, Tamsui, Hiochosho). Nagasawa no. 345 (TI!)

Syn.:

R. cardotii non Koidz.; Ohkawa & Hayashi, Trees and shrubs of the Ryukyu Islands 141 (2016), nom. invalid.

R. euphlebiphyllus Hayata, Ic. Pl. Formos. 5: 44 (1915)

R. fraxinifolius non Poir.; Hatusima and Amano, Fl. Okinawa 44 (1967) ; Fl. Ryukyus 310 (1974)

R. hayatanus Koidz., Fl. Symb. Ori.-Asiat. 68 (1930)

- R. rosifolius* Sm. var. *formosanus* Cardot; Walker, Fl. Okinawa South. Ryukyu Isl. 526 (1976) ; Hatusima and Amano, Fl. Ryukyus 55 (1977) ; Hatusima & Nackejima, Fl. Ryukyu Isl. 221 (1979)
R. somae Hayata, Ic. Pl. Formosa 7: 19 (1918)
R. takasagoensis Koidz., Fl. Symb. Ori.-Asiat. 68 (1930)
 Japanese name : Taiwan-yabu-ichigo
 Distr.: Japan. Okinawa Pref.

引用文献

- 荒金正憲 2006. 豊の国 大分の植物誌 増補. p. 233, 自費出版.
 Caldor, M. J. 1917. Rosacées Nouvelles D' Extrême-Oruebt. Notulae Systematicae 3: 306.
 Endo, Y., Ohba, T., Amano, M. and Mikanagi, Y. 2000. A new hybrid *Rubus ribisoideus* Matsum. × *R. trifidus* Thunb. ex Murray (Rosaceae). Journal of Japanese Botany 75 (5) : 308-311.
 Focke, W. O. 1901. *Rubus*. In Diels, L. in Botanische Jahrbücher für Systematik, Pflanzengeschichte und Pflanzengeographie 26: 390-401.
 初島住彦 1969. 日・台産イチゴ雑記. 北陸の植物 17 (3) : 82-84.
 初島住彦 1976. 日本の樹木. p. 679. 講談社, 東京.
 初島住彦 2004. 九州植物目録. 鹿児島大学総合研究博物館研究報告 (1) : 109.
 初島住彦・天野鉄夫 1977. 琉球植物目録. p. 55. でいご出版社, 那覇.
 初島住彦・中島邦雄 1979. 琉球の植物. p. 221. 講談社, 東京.
 Koidzumi, G. 1930. Florae Symbolae Orientali-Asiaticae 62. Kyoto, Japan.
 Lévêille, H. and Vaniot, E. 1905. Bulletin de la Société d' Agriculture, Sciences et Arts de la Sarthe 60: 63.
 初山泰一 1957. 下北半島採集樹木目録. 資源科学研究所彙報 43-44: 5-11.
 Momiyama, Y. and Ohba, H. 1988. The Universikty Museum, the University of Tokyo, Material report (16) : 17-46.
 邑田 仁 (監修)・米倉浩司 (著) 2012. 日本維管束植物目録. pp. 119-121. 北隆館, 東京.
 Nakai, T. 1914. Plantae novae Coreanae et Japonicae II . Repertorium spcierum novarum regni vegetabilis 13: 267-278.
 Naruhashi, N. 2001. *Rubus*. Iwatsuki, K., Boufford, D. E. and Ohba, H. eds., Flora of Japan II b, pp. 145-169. Kodansha, Tokyo.
 中井猛之進 1918. 朝鮮森林植物篇. 第7輯 pp. 65-66. fig. 25. 朝鮮総督府, 京城.
 中井猛之進 1976. 朝鮮森林植物篇. 第2巻 pp. 67-68. fig. 25. 国書刊行会, 東京.
 Smith, J. E. 1791. Plantarum Icones Hactenus Ineditae 3: t. 60. Typis J. Davis, Londoni.
 呉 修栄・朴 宰弘 2001. 韓国有管束植物分布図. p. 535. アカデミブックス, ソウル.
 小野幹雄・伊藤元巳・豊田武司・小林純子・安井隆弥 1991. 小笠原固有の維管束植物と絶滅危惧種の現況. 東京都立大学小笠原研究委員会 (編) 第2次小笠原諸島自然環境現況調査報告書 pp. 1-12. 東京都立大学, 東京.
 大川智史・林 将之 2016. ネイチャーガイド 琉球の樹木. P. 141. 文一総合出版, 東京.
 豊田武司 1981. 小笠原植物図譜. pp. 135 & 137. アボック社, 鎌倉.
 Tuyama, T. 1937. Plantae Boninense novae vel criticae IX. Botanical Magazine, Tokyo 51: 125-132.
 Walker, E. H. 1976. Flora of Okinawa and the southern Ryukyu Islands p. 526. Smithsonian Inst., Washington, D.C.

